



シールテープを応用した咬合調整

椎名 茂

東京都歯科技工士会所属
シュリーマン



通常シールテープは、技工作業においてクラウンの適合確認等に用いられてきました。そこで、このシールテープを咬合調整に応用したところ良好な結果が得られましたので、紹介します。

咬合調整は、咬合紙を用いた削合後に、印象材あるいはフィットチェッカーで再チェックを行いました。しかし、咬合紙でチェックすると削合するエリアと削合してはいけないエリアが明確でないこ

とがあります。

そこで、シールテープを作業模型上に咬ませて、咬合紙でチェックされた場所とシールテープで表示された圧痕を比較して削合を行うことにより、削り過ぎを避けることができ、適切な咬合状態を保つことができます。また、印象材およびフィットチェッカーよりも、シールテープを用いることにより時間の短縮を図ることができます。

fig.1

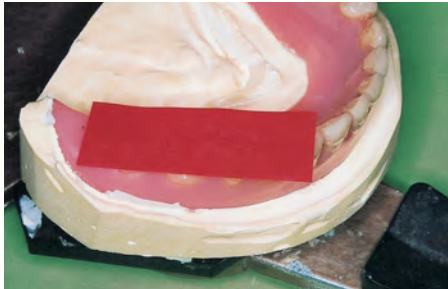


fig.1 : 咬合紙を咬ませる。

fig.2



fig.2 : 咬合紙により印記された咬合面。

fig.3



fig.3 : シールテープ。

fig.4



fig.4 : シールテープを咬合面上に置き、咬合させる。

fig.5

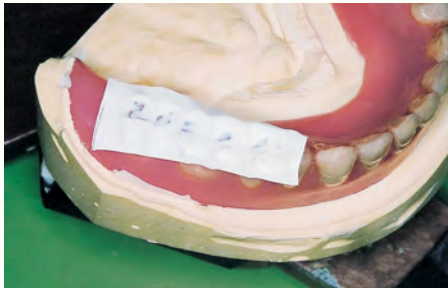


fig.5 : 咬合させた後の圧痕状態。

fig.6



fig.6 : 咬合紙により印記された咬合面とシールテープの圧痕を比較し、削合する。

●問い合わせ先 シュリーマン 椎名 茂 (しいな しげる)
TEL・FAX 03-3614-1775